



◇今回は、中村拓馬さん（名古屋大学経済学部卒）の登場です！

【構造が気になって仕方ない君へ】

はじめまして、2012年に関高校を卒業した中村拓馬 (<https://www.facebook.com/takuma.nakamura.92>) と申します。すでにたくさんの卒業生が皆さんに向けて投稿しているので、今回はこの記事の読者が100人いたとして、1人にだけ刺されればいいなと思って書きます。

拙い文章で抽象的なことばかり書くので、分かりにくい部分や「これ本当？」と気になることもあると思います。その場合は上記URLのFacebookにメッセージをください。必ずお返事をさせていただきます。敬語不要です！お手数ですが、右写真のアイコンを見つけてみてください。



さて、勝手に題名を【構造が気になって仕方ない君へ】と

格好つけてみましたが、この時点で「自分かも」と思った人がいたらうれしいです。以下、具体的に何点か挙げてみましたが、全部気になっていませんか？

- ☑ どうして大学って機関が存在するのか、行く必要があるのか
- ☑ どういう基準で内申点がつけられているのか、そもそも内申は何故必要なのか
- ☑ どうして話が合う/合わない人がいるのか
- ☑ あの芸人も、あのグッズも、どうして流行したのか。

これらのことを自然と考えてしまい、自分の中でスッキリしないと悶々しちゃうって人は是非仲良くなりましょう！この記事は、そんな君に「そのままでもいいんだよ」「どうせならもっと進化しちゃおう」と伝えるラブレターです。

以下、胡散臭いことをつらつらと書きますが、「こいつ痛いな」と思われても皆さんと会うことは多分ないので痛くも痒くありません！もし会った際は「痛いっすねw」と半笑いでイジってくれると嬉しいです。先に軽く自己紹介してから本題に入ります。

▼自己紹介

中村 拓馬（なかむら たくま）1993.07.18 生 関高校-文系

名古屋大学経済学部経営学科-人的資源管理論ゼミ（指導教員：江夏幾多郎）

勤務先：ベンチャー企業（マーケティング課/リクルーター）

▼構造が気になって仕方ないとは？

誰もが一度は思ったことがある「なんで勉強なんてしなくちゃいけないの？」も、構造を問うています。その答えは何だと思いますか？ 自分の考えは正しいと思いますか？ 同じ質問を親や先生や友達にぶつけると、きっと違う答えが返ってくると思います。でも明確な正解なんてないんです。それは国に聞いてもそうです。「**暫定、確からしい答え**」に沿って色々決められていて、高校という機関があって、いわゆる偏差値教育がされています。果たして偏差値を上げることが「勉強」なのか？ という声も最近は大きくなってきていますね。時代背景や社会構造という前提が変わってきたので、「**暫定、確からしい答え**」が疑われているからです。

いきなり何言ってるんだと思いますが、僕はこんなことをずっと考えている関高生でした。全ての物事に対して「いや、目的は何なの？ 何でやらせるの？」と疑っていました。クッソ生意気だったと思いますが、とても大切な問いかけだったなって今でも思います。そこで思考で止めていたら、訳も分からないままやりたくもないテスト勉強をやらされ、特に行きたくもない偏差値にあった大学に進学させられ、「だれだれに～される」という受動系の動詞にまみれて生きていたでしょう。

別にそう生きることを否定しているわけではなくて、ひとつつのパターンだと思います。ただ、僕は「誰かに～される」ではなく、「自分は～する」という生き方をしたかったんです。携帯アドレスも「freedom@～」にしていました。痛いですね。そんなこんなで「何が目的で、そのために誰がどんな手段を取っているか」という構造を見るようにしていた結果、「だからこういう構造になっているのか。そりゃやらなあかん。」と納得して実行したり、「ってことは、やらなくていいな」と実行しなかったりして自分の人生を歩んできて今にいたりします。

▼構造が見えていないと選択肢がなくなり、不満が生まれる。

これは個人的な意見ですが、不満だと思うときは、大抵視野が狭いときです。「本当はこうしたいのに…。なんでこうしなくちゃいけないの！」ってときです。もちろん例外もありますが、大半は視野が広ければ「なるほどな。しゃーなしやで。」「だったらこうすればええやん！」と折り合いをつけることが出来たりします。

僕の経験をひとつ挙げると、名古屋大学在学中に就活したとき、当時ほどの企業も東京面接ばかりで、早い段階からインターンシップにも複数社参加していたので、交通費宿泊費等で累計 50 万円くらいかかったんです。もし東京に住んでいたらって何度も考えて悶々しました。このままだと名古屋の学生の一定数が金銭面の事情で選択肢が狭まってしまう。いや、名古屋に限らず全国の地方学生の選択肢がなくなる。それは社会全体としても機会損失では？ ということで、「どうして東京でしか面接がないのか」「どうしたら地方で就活が出来るのか」を考えた結果、En-courage という団体の名古屋代表に就き、全国規模で就活構造を変える取り組みを実行しました。

細かいことは省きますが、「東京面接」という構造を把握し、それを利用することで、皆さんが知っているような大企業も、知らないようなベンチャー企業までもが地方まで足を運んで面接やイベントをする機会がかなり増えました。今高校生の皆さんが就活するときには、それが普通のことになっていると思いますが、誰かがやらなきゃ変わりませんでした。これも、構造が見えていなければ出来なかったことですし、それに立ち向かおうとしなければ出来なかったことです。一人では到底出来なかったので、同じように構造を見るたくさんの仲間と「こういう構造だから、ここ攻めても意味がない」「このルール

は守らなきゃいけないけど、これは壊していい」と議論しながら協力しました。

社会人になってからも同じように、「会社のここ嫌だな」と悶々したことを言葉にして、「こういう構造だから嫌な気持ちが生まれるのか」と仮説を立て、「じゃあこう作り変えたらいいんじゃないか」と議論しては実行しています。会社のルールを新卒1年目からバンバン変えています。気が付いたら社長の隣の席になっていました。出世する気も出しゃばる気も特にはないですが、経営って多分こういうことなんです。君も部活でそういう話し合いとかしたことないですか？ あれと大して変わりません。不満があるなら自分で変えればいいんです。変えられるのは構造が見えて、そこから踏み出せる人だけです。

▼高校時代の心残り＝伝いたいこと

今まで偉そうなことを書いてきましたが、自分の意見を批判されたり、実行して失敗することをビビって踏み出せなかったことが何度かありました。正直今でもビビります。このビビりと付き合っていくのが一番難しいことかもしれません。構造を見ていて、なおかつどうにかしようと勇気を持って踏み出す君を応援するために、先輩風をふかせてアドバイスを贈らせていただきます。

自分が起こしたアクションに対して、周囲のリアクションは大きく2つに分かれます。

ひとつは「人格に対しての意見」です。「〇〇君凄いね!」「〇〇君うざい…」等の賞賛や批判はこれに入ります。人の気持ちは大切ですが、それぞれ違うので気にしすぎなくていいです。何かをより良くしようと勇気を出して立ち向かう人そのものを批判する人は、「今の構造が一番いいと思っているタイプ」か、「批判することで責任から逃れたいタイプ」です。人格を批判しても何も生まれません。無視無視!

もうひとつのリアクションは「フィードバック」と言われる「アクションに対しての意見」です。「そのやり方よりも、こっちの方がいい。なぜなら～」 「その行動は不快だった/嬉しかった」等の『行動』に焦点を当てたものです。こうした意見は聞いて、参考にして行動を修正していきましょう。より良くするヒントだらけです。こうしたフィードバックをくれる人と過ごす時間は本当にかげがえのないものです。そんな友達やコミュニティに属す生き方を選ぶのもひとつのパターンかもしれません。

残念ながら全員が構造を見えているわけではありません。見えない幸せも、見えてしまう辛さもあります。でも、何かを変えたいなら構造が見えている必要があります。意識しなくても構造が気になって仕方ない君は、常に選ぶ権利があります。どうかそのままで、無理に誰かに合わせないで欲しいです。

▼あとがき

この記事も某先生が、①関高の現状、②『活躍する卒業生』の現状ラインナップ、③世の中の現状（構造の変化）を考えて、ありがたいことに僕に声をかけてくださってカタチになりました。「こういう大学生活を送って、今はこんな仕事をしています。皆さん勉強頑張ってください」なんて内容を求めるならば、僕に頼む必要はないです。どうして先生は僕に頼んだのでしょうか？ しっかりと役目を果たせていれば幸いです。どうか、この記事が100人中1人に届いていますように。

(文責：2018.01.31 中村拓馬)